

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 人間コミュニケーション学科

教授 瀧口 綾

1. 教育の責任

大学全入時代を迎え大学教育の質が問われて久しい。全国に多数の大学が存在する中、本学を選択してくれた学生本人やその家族に感謝するとともに、一方で、多様な学生が入学してくる状況において、学生の多様性を的確に受けとめ、それぞれの特性やニーズに応じた柔軟な教育を行うことが、大学教育における重要な課題である。全国的な基礎学力の低下も叫ばれる時代において、それぞれの学生に合った学びを用意し支えていく方法も検討も必要であろう。学生一人ひとりの学びを支援しその成長を促し、学生が自ら選択した進路に進めるよう、適切なサポートを行うことが求められている。併せて社会人としての基礎的な力も身につけて送り出す必要性もある。社会で求められる実践的能力や自己理解・キャリア形成の支援を重視し、学生の将来を見据えた、きめ細やかな指導と支援の充実が、大学の重要な責務の一つであるといえる。

私は健康科学部の人間コミュニケーション学科の教員として、専門科目を中心に総合基礎科目及び専門基礎科目も担当している。本学科は、民間企業への就職を希望する学生が多数を占めているため、学生の個々のニーズに合わせた進路指導も行っている。また継続して公認心理師養成科目の一部を担当している。直近の過去 2 年間の担当と授業科目は以下のとおりであり、各授業のシラバスは健康科学大学のホームページ上で公開されている。

主要な担当科目は、人間の成長や人と人とのつながりなど、人間の基礎を学ぶ発達心理学やコミュニケーション論、また対人援助について学ぶ臨床心理学概論/臨床心理学などである。

2023 年度

科目名	時期		受講者
発達心理学	1 年/2 年/3 年後期	必修/選択	36 名
リハビリテーション特別講義 I	1 年/2 年後期	選択	67 名
コミュニケーション論	1 年/2 年後期	必修/選択	68 名
臨床心理学概論	1 年前期	必修	32 名
臨床心理学	2 年前期	選択	9 名
心理学的支援法	3 年前期	選択	10 名
コミュニケーション演習	2 年後期	選択	4 名
障害者心理学	3 年集中	選択	1 名
心理面接法	3 年集中	選択	1 名
ホスピタリティコミュニケーション	1 年/2 年後期	選択必修	26 名
ラブ&ジェンダーコミュニケーション	2 年/3 年後期	選択	5 名
臨床社会学スタディーズ	2 年/3 年後期	選択必修	20 名

福祉心理学基盤演習Ⅰ	2年前期	必修	12名
福祉心理学基盤演習Ⅱ	2年後期	必修	12名
福祉心理学専門演習Ⅰ	3年前期	必修	6名
福祉心理学専門演習Ⅱ	3年後期	必修	8名
福祉心理学専門演習Ⅲ	4年前期	必修	4名
福祉心理学専門演習Ⅳ	4年後期	必修	4名

2024年度

科目名	時期		受講者
発達心理学	1年/2年前期	必修/選択	53名
リハビリテーション特別講義Ⅱ	1年/2年後期	選択	69名
コミュニケーション論	1年/2年後期	必修/選択	85名
臨床心理学概論	1年後期	必修	43名
心理学的支援法	3年前期	選択	16名
コミュニケーション演習	2年後期	選択	4名
ホスピタリティ・コミュニケーション	1年/2年後期	選択必修	36名
コミュニケーション・スタディーズ	2年/3年前期	選択必修	24名
ラブ&ジェンダーコミュニケーション	2年/3年後期	選択	5名
福祉心理学基盤演習Ⅲ	2年前期	選択	12名
福祉心理学基盤演習Ⅳ	2年後期	選択	12名
福祉心理学専門演習Ⅰ	3年前期	必修	7名
福祉心理学専門演習Ⅱ	3年後期	必修	6名
福祉心理学専門演習Ⅲ	4年前期	必修	8名
福祉心理学専門演習Ⅳ	4年後期	必修	8名
心理実習1	3年/4年後期集中	必修	3名
心理演習2	4年後期集中	必修	1名

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

- 1) 健康科学大学リハビリテーションクリニック 心理士
- 2) 西桂町発達相談支援事業 心理発達相談員
- 3) 山梨県インクルーシブ教育推進事業 外部専門家（心理士）
- 4) 山梨県教育委員会やまなし幼児教育センター幼児教育アドバイザー事業 幼児教育アドバイザー
- 5) 山梨県立富士河口湖高等学校 学校評議委員

- 6) 山梨県立富士北稜高等学校 学校評議委員
- 7) 人権問題対策委員
- 8) 衛生委員
- 9) 学生・就職・卒後教育委員
- 10) 研究倫理委員

1)～3) の臨床活動においては、地域住民への相談業務や、就学前の母子を対象とした子どもの発達相談及び保護者支援、特別支援学校および地域校における児童・生徒支援、保護者・教員への助言などのコンサルテーションの実践を通して、学生には信頼関係の構築や傾聴、共感の重要性を伝えている。これらは、公認心理師養成課程の演習のみならず、一般企業においても求められる対人関係における共感的理解やコミュニケーション力、課題発見力、発信力といった社会人基礎力の育成に寄与している。

4) の活動は、幼児教育の専門家として幼稚園、保育園、認定こども園などにおいて教育内容、指導方法等について専門的な立場から指導や助言を行う活動である。このような就学前の子ども達の健やかな育ちを支える実践は、学生に対して、子どもの発達理解に基づいた支援の在り方や、対人援助の姿勢を具体的に伝える貴重な教育資源である。講義では、子どもを中心に据えた支援や専門的知見を生かした対人関係構築の力などを学ぶ機会を提供し、社会人基礎力や対人援助職を目指す学生の資質・能力の育成に還元している。

5) 及び 6) の活動に関して、学校評議員は外部の視点から学校教育を考え、地域社会との橋渡し役を担う役割である。各高校における実状を把握し学校運営に関する意見・助言を行う学校評議員の役割は、学生に対して、多様な立場や価値観を尊重しながら協働する力や社会的課題に対する関心と自分のこととして捉える意識を育む教育的資源として活用できると考えている。

2. 教育の理念・目的

本学は、これからの共生社会の発展に寄与するために、様々な複合的問題に立ち向かうことができる問題解決能力を備えた人材の育成を目指し、「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の三つを兼ね備えた人材を育成することが本学の使命であるとしている。

社会人として、一定のコミュニケーション力を身につけ、自分らしく、人に対する深い理解と尊敬の念を持ち、広い視野で物事をとらえ、多様性を尊重する姿勢を身につけるとともに、主体的に行動できる人材を養成することを教育の中心に置いている。社会の中での自分の役割がわかり、責任感を持って主体的に行動できることが大事であるとする。社会に出てからは正解のない課題に取り組まねばならず、一人では解決できないことに多くの機会直面し、他者と協働することを求められると予測できる。自分一人では解決できないことも、他者と協力しながら取り組むためのコミュニケーション力を身につけることが重要で

ある。グループワーク等の授業を通して、他者を尊重しながら自分の考えをわかりやすく相手に伝えること、必要に応じて他者の助けを求められることなど学生自身の主体的なコミュニケーション力を向上させることが必要となる。それぞれの学生が、自らの考えを持ち、他者と協力しながら課題を乗り越える力を育み、共生社会の一員として他者とともに歩む力を養うことを教育の目的としている。

公認心理師としての知識やスキルを用いて、主体的に他者の役に立つことができる人材を育成する。人間理解に必要な科目や面接のスキルのような専門的なスキルを深める演習科目などを通して、公認心理師を目指す者としての自分の課題に目を向けつつ、改善方法をイメージできるように、これまで臨床現場で培った知識とスキルをわかりやすく伝えていく。

3. 教育の方法

教育の機会については、講義のみならずあらゆる場面で必要に応じて展開していくことが可能である。授業開始及び終了時の挨拶の実施や遅刻や欠席など生活態度についても指導していく。

・アクティブラーニングと心理的安全性に配慮した体験的な学び

担当しているほとんどの授業において学生同士が互いに学び合い、気づきを深めていけるよう、グループワークや体験的な活動を取り入れている。特にコミュニケーションを学ぶ授業では、ロールプレイやペアワークなどを通して意見交換をすることで、自らの感情や価値観に気づき表現できる機会を大切にしている。また、近年は多様な背景をもつ学生が増えていることから、グループワークの前にアイスブレイクを取り入れ、安心して自分の意見を伝えやすくなるような雰囲気づくりをしている。

グループワークやペアワークの後には、学生同士で振り返りや簡単な相互評価を行う機会を設けており、自分の役割や関わり方を見つめ直すとともに、他者の視点からのフィードバックを受け取ることで学びの深まりや気づきを促している。他の人の意見を聞き視野を広げること、意見の違いの受け止め、意見交換などコミュニケーション力の向上も重視しているため、グループを組む際には、なるべく他学科の学生と交流できるよう配慮することで、コミュニケーション力の向上及びグループでの話し合いが雑談で終らずしっかり意見交換ができるよう工夫した。

・現場経験を活かしたわかりやすい授業づくり

公認心理師としての現場経験をもとに、授業では面接場面での基本的な姿勢やコミュニケーションの実際について、学生にとって身近で理解しやすい形で伝えることを心がけている。営業職など一般企業への就職を目指す学生や、放課後等デイサービスなど対人

支援の職に就く学生も多いため、それぞれの将来に役立つ実践的な学びを提供することを重視している。授業では、具体的な事例の提示や、人の感情や行動を理解する視点を交えながら、すぐに活かせるコミュニケーションの方法を取り上げている。また、学生の反応を踏まえて説明の仕方や活動内容を調整するなど、柔軟に授業を運営している。授業後の振り返りやリアクションペーパーなどを通して、学生の気づきや質問を把握し、次回以降の授業に反映させるなど、フィードバックを活かした授業改善にも努めている。

4. 教育の成果・評価

授業評価アンケートを活用して、実際に得られている効果や授業内容の反省点を振り返り、改善に活かすことができる。また授業後、毎回リアクションペーパーの提出を求め、コメントの内容や疑問に思った点等を分析し、次年度のシラバス作成に活かしている。

・コミュニケーション論

全8回の講義であり、2学科の学生が履修していた。80名以上の受講生がおり、コミュニケーションをグループワークやペアワークなどの体験を通して学ぶための工夫が必要であった。講義の前半で基本的な知識や理論について講義し、後半で体験を通して学ぶという構成をとった。グループ構成は他学科の学生が混ざるように工夫を行った。その結果、授業評価アンケートには「他学科の学生と関わる機会が少ないためこのような講義は良い」という記述が見られ好印象を得た。一方で、昨年同様ワーク実施の後の振り返りの時間が十分とれなかったのが課題として残るので、次年度の授業内容に活かしていきたい。「コミュニケーションについて分かりやすく説明していた」と講義内容のレベルも学生に合っていたと考える。前回の授業で提出してもらったリアクションペーパーの内容及び質問について、次回の授業の冒頭で取り上げ、コメントを行った。前回実施したワークの振り返りを紹介することが多く、グループワークやペアワークを通して知り得た自分の価値観や感情と他の学生の体験を比べることができたことが良かった点だと考えている。

・発達心理学

人の成長・発達の過程を学ぶため、各発達理論及び現代における諸問題の紹介のみならず、できるだけグループワークを通して意見交換し、人を理解するための視点を広げることが目指した。他にも各自でワークシートを活用し、自分自身の子どもの頃と現代の子どもの遊びや仲間関係などを比較して、時代の変化とともに発達の様相も変化することを体験的に学ぶことを工夫した。

また、前回の授業で提出してもらったリアクションペーパーの内容及び質問について、次回の授業の冒頭で取り上げ、コメントを行った。授業冒頭の15分程度の時間をコメント時間に費やすのだが、毎回コメントを行うのは準備に時間と労力を費やした。前回

のコメントについて、さらに質問をする学生がいるなど、理解を深めるためのきっかけになっていると思われる。学生の反応から今後も引き続き継続していきたいと考えている。

5. 今後の目標

短期目標：授業評価アンケートやリアクションペーパーを踏まえた授業内容の改善

授業評価アンケートの内容及び授業後のリアクションペーパーを参考にして、学生の理解を促すような授業改善を行っていく。特に毎回のリアクションペーパーへのコメントの返却、質問へのコメント、前回の授業のコメント及び質問への回答、次回の授業で紹介しコメントすること、以上を丁寧に行っていく。授業評価アンケート及びリアクションペーパーは、よりよい授業を行うためのエッセンスが詰まっているものとする。少しでも長く時間をかけて、分析して授業改善につなげることが必要である。

長期目標：学生のニーズに合わせた学習方法の検討と情報収集

学生の中には、自分に合った学習方法が見つからず授業参加へのモチベーションが低い者が少なからずいる。そのような学生に対してどのようにアプローチすることが有効なのか考えていきたい。学生への聞き取りを中心に学生との面談を土台として学習方法を探す支援をすること、同時に多様な学生に関する研修会等に参加して役立つ情報を集めていきたいと考えている。